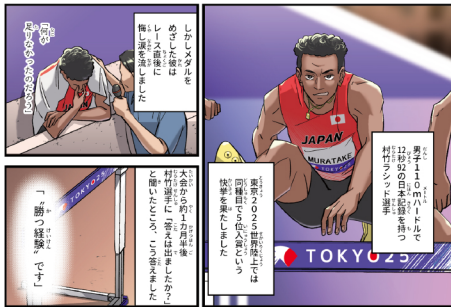




トッパススリートに
聞く!
失敗して当たり前
挑戦を楽しもう

得意だった走る姿を、
合体させハードルの選手に

小学3年生のときに陸上競技を始め、小学6年生のときに「やててみたか」選手と走幅跳に取り組んだ村田リサコ選手。110mハードルとの出会いは中学3年生のとき。「走ることも速く、速くても得意だった」と思いました。両方合わせたらおもろいなと思う」と思いました。

パリ2024オリンピックでは、オリピックの110mハードルで日本人選手

試行錯誤するからこそ
成長できる

村竹選手は競技に臨む前「挑戦しよう」という気持ちで大切にしているようです。「スポーツというものは試行錯誤の繰り返しで、その過程が楽しさのひとつでもあると思っています。最初に失敗するからこそどうしたらうまくいくだろう?」というように挑戦するもの。挑戦する



うことは自分のことを分析できてくるというところであるから、その成長を降けられるのだと思つてゐる」

「そうして挑戦する気持ちがあるにあれば、『棄しめよ』という失敗も生まれてきます。『棄しめよ』という失敗を恐れて、挑戦できない。僕自身は、失敗して当たり前だ、いろいろに思つてゐる。むしろ最初からうまくいつたらつまらないじゃないですか。小中学生の皆さんも敗戦を恐れて、自分がやりたくないことに、果敢に挑戦してほしいです」

フェアプレー 7カ条

- ①約束を守ろう
- ②感謝しよう
- ③全力をつくそう
- ④挑戦しよう
- ⑤仲間を信じよう
- ⑥思いやりを持とう
- ⑦楽しもう

